

金沢都市圏

交通円滑化総合計画



国土交通省・石川県・石川県警
金沢市・松任市・鶴来町・野々市町・津幡町・内灘町

金沢都市圏交通円滑化総合計画

計画の概要

「金沢都市圏交通円滑化総合計画」とは、金沢都市圏の交通円滑化を図るため、交通容量拡大施策(施設づくり)と交通需要調整施策(仕組みづくり)を組み合わせた総合的な施策を推進するための計画です。この計画では、市町村の枠にとられない広域的な取り組みが進められます。

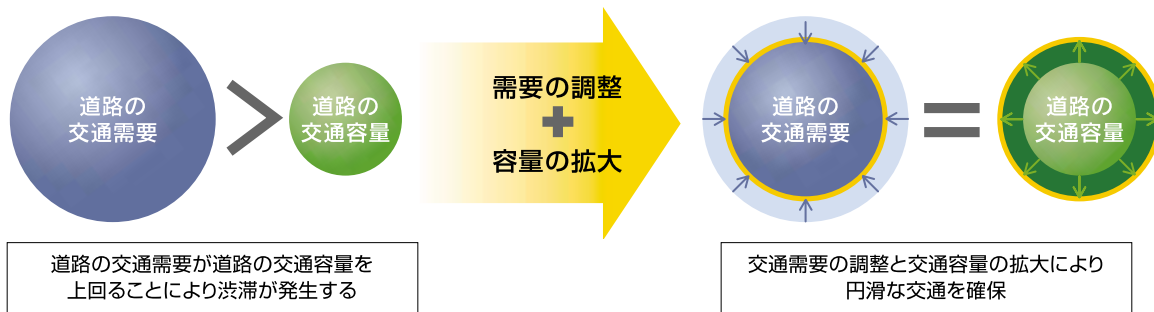
■ 計画策定年次 / 平成14年3月

■ 計画期間 / 5年間(平成14年～18年)

■ 計画対象範囲 / 金沢都市圏(金沢市・松任市・鶴来町・野々市町・津幡町・内灘町)

渋滞を緩和するための考え方

これからは、**交通容量を拡大する施策(施設づくり)**と**交通需要を調整・抑制する施策(仕組みづくり)**をうまく組み合わせ、効率の良い渋滞の緩和策を展開します。



交通容量拡大のための施策(施設づくり)

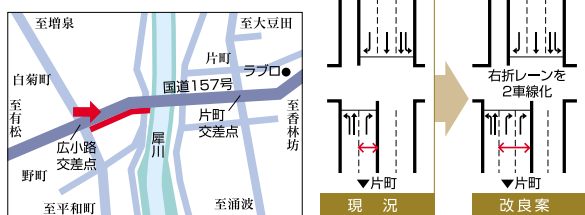
より多くの車が走れるように道路の整備や改良を行ない、交通の円滑化を図ります。

代表的施策

- ◆ 体系的な道路ネットワークの整備(バイパス・環状道路等)
- ◆ 拡幅整備(多車線化、幅員確保等)
- ◆ ボトルネックの解消(交差点・踏切の立体化、交差点改良・信号現示の見直し等)
- ◆ 荷捌き施設の整備 など

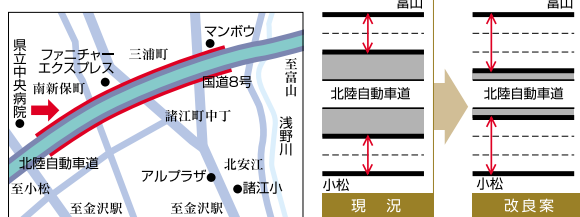
● 国道157号 野町広小路交差点の改良

野町広小路交差点の右折レーンを2車線化して、渋滞を緩和



● 国道8号 諸江・南新保間の6車線化

国道8号の上下2車線を拡幅し、3車線化することにより諸江・南新保間の渋滞を解消



事業の効果

平成16年3月より供用開始した国道8号 諸江・南新保間上り線(福井→富山方面)の3車線化により諸江交差点を先頭とした渋滞が解消。平成16年度には下り線(富山→福井方面)の3車線化も完了予定。

効果1
渋滞長 約94%減
約2,500mが約140mへ

効果2
通過時間 約12分短縮
約14分が約2分へ

(写真:国道8号諸江・南新保間)



主要施策図

金沢都市圏の渋滞解消に向けて、平成14年度より、以下のような施策に取り組んでいます。

パーク&ライド、サイクル&ライドの推進

通勤パーク&ライド



- STEP1 自宅からマイカーで郊外駐車場へ
- STEP2 郊外駐車場でバス・電車に乗り換えて都心部へ
- STEP3 都心部の停留所・駅から歩いて会社へ

サイクル&ライド駐輪場の整備



(写真:北鉄蚊爪駅の自転車駐輪場)

交通結節点の整備

松任駅前広場の整備



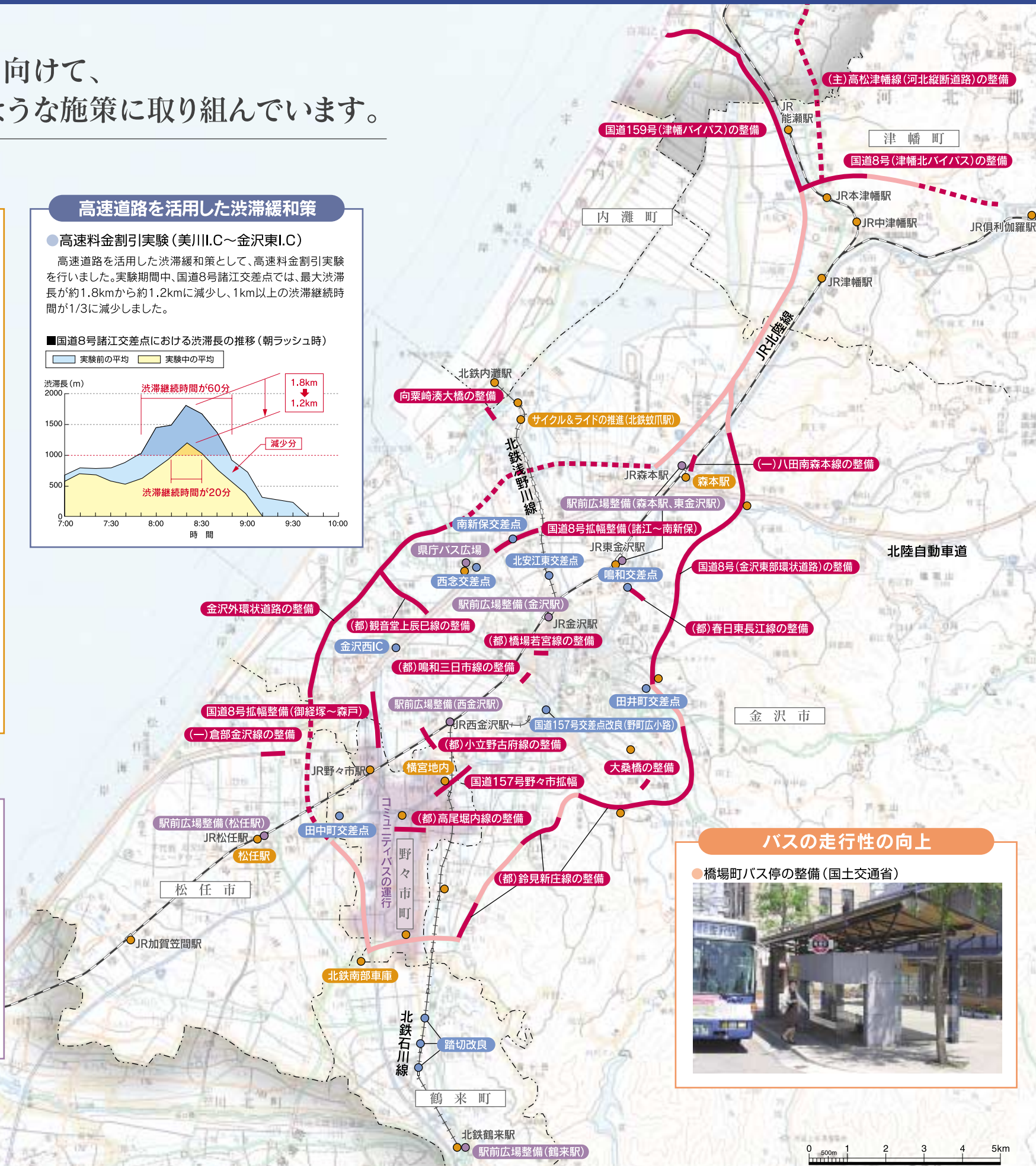
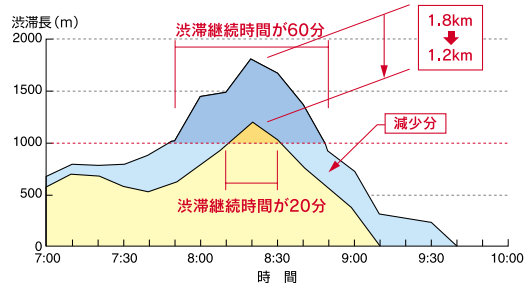
高速道路を活用した渋滞緩和策

高速料金割引実験(美川I.C~金沢東I.C)

高速道路を活用した渋滞緩和策として、高速料金割引実験を行いました。実験期間中、国道8号諸江交差点では、最大渋滞長が約1.8kmから約1.2kmに減少し、1km以上の渋滞継続時間が1/3に減少しました。

■国道8号諸江交差点における渋滞長の推移(朝ラッシュ時)

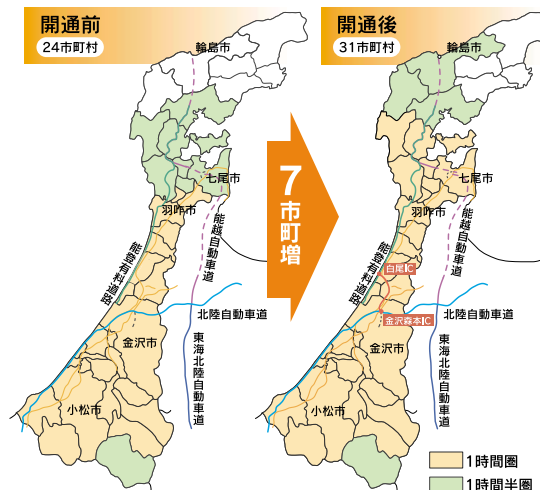
■実験前の平均 ■実験中の平均



体系的な道路ネットワークの整備

月浦白尾IC連絡道路と国道金沢東環状道路の開通

月浦白尾IC連絡道路と国道金沢東環状道路の総延長約15kmの道が開通したことにより、能登有料道路と北陸道間が従来の半以下の15分で走行できるようになりました。これによって高速道路のICに1時間で到達できる市町村(役場)が31市町村に増えました。



コミュニティバスの運行

野々市町コミュニティバス「のっぴ」



バスの走行性の向上

橋場町バス停の整備(国土交通省)



(主).....主要地方道
(一).....一般県道
(都).....都市計画道路

凡例	
交通容量 拡大施策	道路網整備 (H18年度までに供用・完成予定)
	道路網整備 (H19年度以降に供用・完成予定)
	供用・完成済み道路
交通需要の 調整施策	交差点改良等
	パーク&ライド駐車場整備検討
	交通結節点の整備
	コミュニティバスの運行
金沢都市圏界	

交通需要調整のための施策(仕組みづくり)

道路を利用する人数、利用の仕方、利用時間を調整・改善することにより交通の円滑化を図ります。



交通需要マネジメント

輸送効率のよい公共交通の優遇や集中利用時間帯の分散をはじめとする利用者側の需要調整により交通渋滞緩和を進めます。

代表的施策

- ◆フレックスタイム、時差出勤・通学の促進
- ◆カーシェアリングの検討
- ◆TDM※推進組織化
- ◆駐車場案内システム整備
- ◆高速道路を活用した渋滞緩和策など

※TDM(交通需要マネジメント)とは、自動車利用者の交通行動の変更を促し、都市または都市圏レベルで交通渋滞を緩和する手法

●県庁職員の時差出勤

平成15年1月の県庁移転に伴い、朝の出勤時間を8時半と9時の2回に分け、通勤ピークを分散

●駐車場案内システム

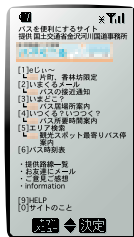
現在27箇所の駐車場について、位置や満空情報を提供



(写真:六枚交差点)

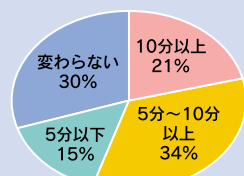
●バスく～る®金沢路線バス情報

路線バスの運行状況等をリアルタイムにインターネット(パソコン、携帯電話)で配信するシステム



バスく～るで待ち時間5分短縮

バスく～るを利用するようになって、減ったバス待ち時間は?



バスく～るにより、バス待ち時間が5分以上減ったという人が約55%を占める。(H16.1のアンケート結果より)

アドレスは携帯電話、パソコンともに<http://www.kanazawa.go.jp/bus/>

バスく～る®は、国土交通省金沢河川国道事務所登録商標です。

代表的施策

- ◆共同集配システムの検討
- ◆公共交通運行情報の提供
- ◆自転車通行環境の整備
- ◆バスの走行性の向上
(バス路線の道路整備、バスベイ、バス停のバリアフリー化)
- ◆パーク&ライド、サイクル&ライドの推進
- ◆バス専用レーン、PTPS(公共車輛優先システム)等の整備 など

ぼくの名前は「くるん」です。



多様な交通手段の選択が可能となるよう車以外の交通機能の充実を図り、車に頼らなくて良い交通環境整備を進めます。

代表的施策

- ◆交通結節点の整備
(駅前広場、バスターミナル等)
- ◆路線バス、鉄道の結節強化
- ◆歩行空間のバリアフリー整備
- ◆コミュニティバスの運行 など

●交通結節点の整備



(写真:金沢駅東広場)

●歩行空間のバリアフリー整備



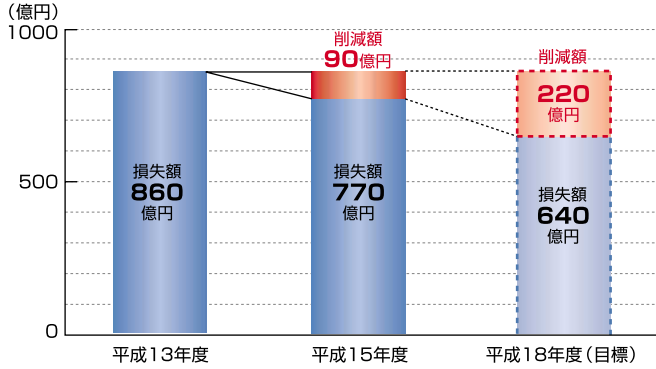
(写真:リファールレ前のアーケード)

マルチモーダル



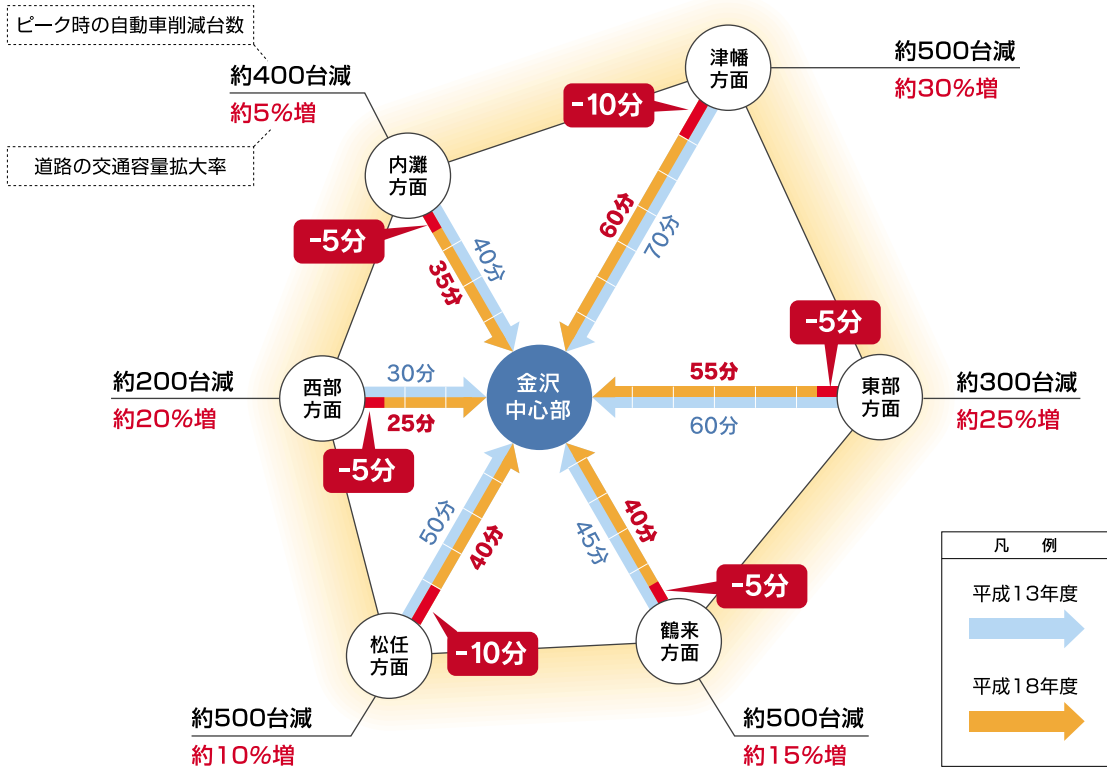
計画の実現により、渋滞損失額を
平成15年度までの2年間で**90億円削減**
平成18年度までの5年間で**220億円削減**

■渋滞損失額の推移(目標)



※渋滞損失額とは

渋滞がある場合とない場合の所要時間の差から算定した渋滞損失時間に、時間価値を乗じることによって、時間的損失を経済活動上の貨幣価値に換算したものであり、いずれも推計値である。



お問い合わせ

金沢市都市政策部交通政策課

TEL.076-220-2038 FAX.076-220-2048

URL.<http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/koutsuu/> e-mail.koutsuu@city.kanazawa.ishikawa.jp